

平成 20 年度決算の概要

学校法人会計基準では、会計年度の終了時に「資金収支計算書」「消費収支計算書」及び「貸借対照表」を作成することを必要としています。

このうち「消費収支計算書」は、当該会計年度の収入と支出の内容および均衡の状況を明らかにすることにより、学校法人の経営状況が健全であるかどうかを判断できる有力な材料となりうることから、本報告も当該計算書を中心に説明することにします。

消費収支計算書の概要

(1) 消費収入の部

学生生徒等納付金の他、期中本法人の総収入に当る帰属収入合計は、25 億 3,451 万 2 千円で、これから基本金組入額 2 億 8,300 万 5 千円を差し引いた消費支出に充当しうる資金としての消費収入の部合計は 22 億 5,150 万 7 千円となりました。

予算との対比では、帰属収入合計が 1,686 万 8 千円増加し、一方基本金組入額合計は、2,523 万 5 千円減少したことにより、消費収入の部合計は予算比 4,210 万 3 千円増加しました。

消費収入の部の科目別では、学生生徒等納付金が予算比 2,072 万 8 千円増加しました。手数料は、学部の入学志願者の増加により入学検定料等が予算比 428 万 3 千円増加しました。補助金は、国庫補助金の一般補助金が全体の圧縮率の増加や基礎係数の減点などにより予算比 1,334 万 2 千円減少しました。事業収入は、公開講座「フューチャーマ」の受講者が減少したことなどにより予算比 686 万 4 千円減少しました。

(2) 消費支出の部

人件費及び物件費（教育研究経費及び管理経費）を主とした消費支出の部合計は 21 億 4,562 万 3 千円で予算比 1 億 3,845 万 4 千円の減少となりました。物件費科目別では、消耗品費、旅費交通費、通信運搬費、印刷製本費、業務委託費など諸経費の支出の圧縮に努めた結果 7,604 万 5 千円減少しました。なお、今年度は、予備費 3,000 万円は使用しておりません。

(3) 消費収支戻

消費収入の部合計から消費支出の部合計を差し引いた当年度の消費収支差額はプラス 1 億 588 万 4 千円となりました。この結果、前年度の繰越消費支出超過額 16 億 6,865 万 2 千円を加えた翌年度繰越消費支出超過額は 15 億 6,276 万 8 千円となりました。

予算との対比では消費収入が増加したうえに、消費支出の減少も大きく 1 億 8,055 万 7 千円改善しました。

(4) 基本金組入

平成 20 年度決算の基本金組入の内容について説明します。

当期の基本金組入額は、2億8,300万5千円となりました。この内訳は、第1号基本金組入額1億7,232万5千円、第2号基本金組入額1億円及び第3号基本金組入額1,068万円からなっています。

第1号基本金組入額は、日本私立学校振興・共済事業団からの借入金返済(9,443万円)の他、建物支出や図書費を組入れています。また、第2号基本金への組入れは、1号館校舎立替資金への組入れであり、第3号基本金への組入れは、学生厚生基金(奨学基金)、教育研究助成基金及び国際交流基金への組入れとなっています。

資金収支計算書の概要

資金収支計算書は、当該年度の教育・研究その他の活動に対応するすべての収入・支出の内容並びに支払資金のてん末を明らかにしたものです。

当該年度の収入の部合計は、前期繰越支払資金26億7,794万1千円を含めて57億16万8千円となり予算比2,596万7千円の収入減となりました。一方、当該年度の支出額の合計は、28億8,663万8千円となり予算比1億9,455万1千円の支出減となりました。この結果、次年度繰越支払資金は、予算比1億6,858万4千円増の28億1,353万円となりました。

貸借対照表の概要

平成21年3月31日現在の総資産は109億2,676万1千円で前年度末比9,317万8千円増加しました。

一方総負債は15億4,213万8千円で前年度末比2億9,571万1千円減少しました。この結果、純資産(総資産 総負債)は93億8,462万3千円となりました。